

新規事業採択時評価結果（平成29年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
 担当課長名：川崎 茂信

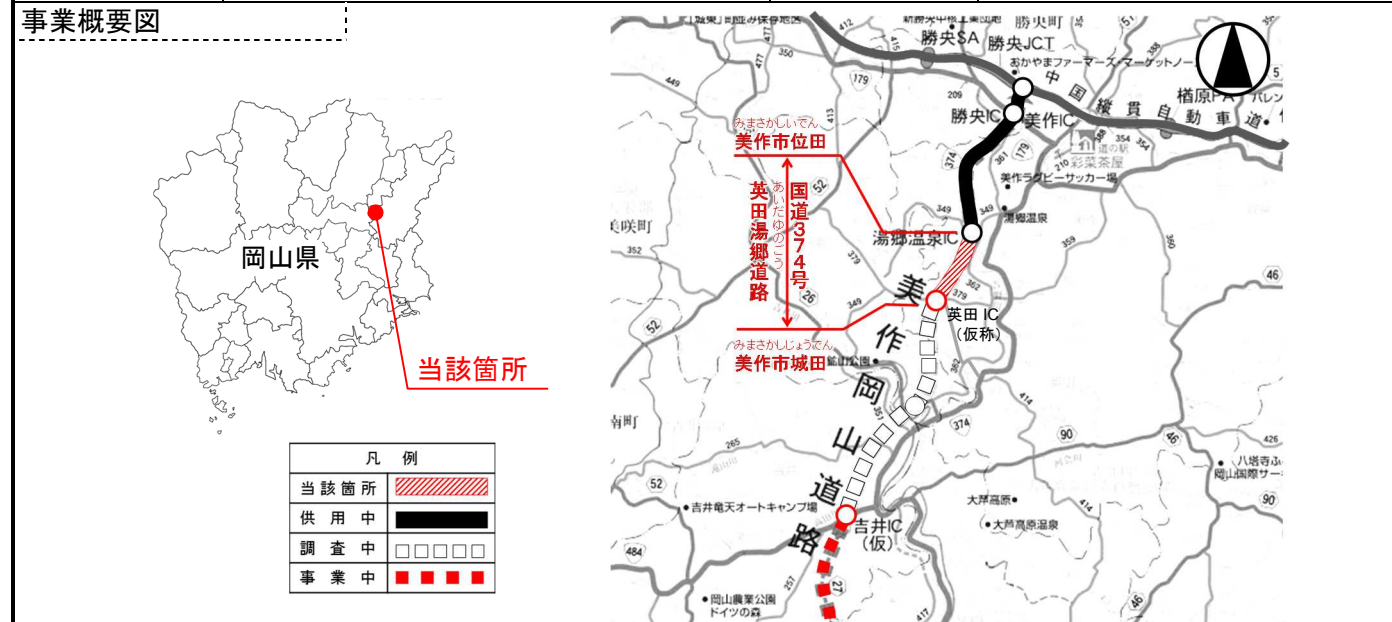
事業の概要

事業名	地域高規格道路 美作岡山道路 国道374号 英田湯郷道路	事業区分	一般国道	事業主体	岡山県
起終点	自：岡山県美作市城田 至：岡山県美作市位田	延長	2.5 km		

事業概要
 美作岡山道路は、既存の高速道路と一体となって岡山県内を環状する道路網を形成し、美作圏域と岡山都心部とを結ぶ基幹的な道路である。
 国道374号英田湯郷道路は、美作岡山道路の一部を構成し、地域の産業・経済の活性化に資するとともに、信頼性の高い道路ネットワークを確保する道路である。

事業の目的、必要性
 ・国道374号英田湯郷道路は、岡山県内を環状する高速道路網を形成し美作圏域と岡山圏域の交流を促進する地域高規格道路「美作岡山道路」の一部を構成するもので、既存の勝央JCT～湯郷温泉IC間と一体となって周辺企業の物流環境の向上や産業団地の整備と合わせた企業進出など、地域の産業振興に資するとともに、事前通行止め箇所を抱える現道の回避や救急搬送時間の短縮により安全・安心に資する道路である。

全体事業費 約60億円 計画交通量 約7,400台/日



関係する地方公共団体等の意見
 地元美作市長を会長とする美作・岡山間道路整備促進期成会（美作市、岡山市、赤磐市、美咲町、勝央町、和気町、及び各議会）や美作～岡山間道路改修促進期成会（赤磐市、岡山市、美咲町、美作市、及び各議会）から毎年早期整備を要望されている。

学識経験者等の第三者委員会の意見
 岡山県事業評価監視委員会から、本箇所の新規着手は妥当と答申されている。

事業採択の前提条件
 費用対便益：便益が費用を上回っている
 手続きの完了：環境影響評価が完了（平成26年9月）

事業評価結果

費用便益分析	B/C	1.4	総費用：47億円 （事業費：46億円 維持管理費：1.9億円）	総便益：68億円 （走行時間短縮便益：50億円 走行経費減少便益：16億円 交通事故減少便益：2.8億円）	基準年：平成28年度
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.5(交通量+10%)	B/C=1.3(交通量-10%)	
		事業費変動	B/C=1.3(事業費+10%)	B/C=1.6(事業費-10%)	
	事業期間変動	B/C=1.3(事業期間+20%)	B/C=1.5(事業期間-20%)		
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価項目	評価	根拠	
		渋滞対策	-	・注目すべき影響はない	
		事故対策	◎	・現道から自動車専用道路への交通量の転換による死傷事故の減少が期待される。 【死傷事故率】158.3件/億台キロ（3箇所） （死傷事故率比（平均*比）約2.2倍） ※岡山県管理道路平均死傷事故率70.4件/億台キロ	
	歩行空間	-	・注目すべき影響はない		
	社会全体への影響	住民生活	◎	・第三次救急医療施設「津山中央病院」へのアクセス向上	
		地域経済	◎	・英田IC（仮称）付近の企業の関西方面への物流の安定化、効率化 ・美作市の産業団地開発計画（総合戦略に位置づけ）があり、道路整備により新たな企業進出を支援	
		災害	◎	・事前通行規制区間や、冠水・倒木等による通行止めの頻発箇所を回避 ・要防災対策箇所（8箇所）を回避	
環境		-	・注目すべき影響はない		
地域社会	○	・美作圏域と岡山圏域の交流促進			
事業実施環境	◎	・計画に対する地元同意取得済み。 ・地元美作市長を会長とする美作・岡山間道路整備促進期成会（美作市、岡山市、赤磐市、美咲町、勝央町、和気町、及び各議会）や美作～岡山間道路改修促進期成会（赤磐市、岡山市、美咲町、美作市、及び各議会）から毎年早期整備を要望されている。			

採択の理由

事業主体である岡山県が実施した評価結果に基づけば、費用便益比1.4と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。
 また、物流の安定化・効率化、企業進出の支援、医療機関へのアクセス向上、交通の転換による死傷事故の減少等、当該事業の必要性・効果は高いと判断できる。
 以上により、本事業は平成29年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。